

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ねむの樹元宮保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：水野 裕明	定員（利用人数）： 114名（利用人数：127名）
所在地：〒230-0004 横浜市鶴見区元宮2-5-28	
TEL：045-580-0015	ホームページ： <a href="https://www.nemunoki-y.or.jp">https://www.nemunoki-y.or.jp</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成27年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人ねむの樹	
職員数	常勤職員：23名 非常勤職員：12名
専門職員	（専門職の名称） 名
	園長：1名 栄養士：3名
	主任：1名 調理師：3名
	保育士：25名 事務員：2名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	保育室：3室 園庭：有
	トイレ：6ヶ所
	調理室：1ヶ所 事務室：1室

③ 理念・基本方針

【保育理念】

児童福祉法に基づき「保育に欠ける」乳幼児の保育を行うが、保育にあたっては、子どもの人権や主体性を尊重し、児童の最善のために日夜、保護者や地域社会と力を合わせ、児童の福祉を積極的に増進し、合わせて地域における家庭援助を行う。

なお、児童福祉を積極的に進めるために、職員は豊かな愛情をもって接し、児童の処遇向上のため、知識の修得と技術の向上に努める。また、家庭援助の為に、常に社会性と良識に磨きをかけ、相互に啓発するものである。

【保育の基本方針】

- 1.乳幼児期に最も必要な感性を音楽あふれる環境の中で育む。
- 2.子どもの発達に合わせ、遊びを通して創造力や自主性を養う。
- 3.それぞれの子どもの個性を大切にしながら、思いやりの心を育てる。
- 4.養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育成する。
- 5.子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができるように、ご家庭との連携を深め、より良い環境を作る。
- 6.情操教育の一環として音楽教室、英語教室を実施する。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

ねむの樹元宮保育園は、最寄り駅からは徒歩15分、住宅や工場が混在する地域に位

置しています。すぐ近くには鶴見川が流れ、川沿いの道が子どもたちのお気に入りの散歩コースになっています。園には比較的広い園庭があり、思い切り走り回ることができますが、近隣にも自然がある公園が点在し、ほぼ毎日、散歩や園庭遊びなどの外遊びを積極的に取り入れています。

ねむの樹の保育の保育の特徴としては次の3点を取り上げています。

① 美味しい給食・食育活動

ねむの樹の給食は、自園での美味しい手作り給食です。食に対する意欲を高め、食事を自発的に美味しく楽しく食べられるようになるよう見守っています。食の大切さを知るための活動として、子どもたちと野菜、さつまいも、お米の栽培を行い、給食で食べたり、クッキングを行ったりしています。色々な食体験を通して、子どもたちの生きる力を育てていきます。

②音楽教室・英語教室

情操教育の一環として、専門講師による音楽遊び・英語遊びを実施しています。赤ちゃんの頃から音楽遊びや英語遊びに慣れ親しむことで、自然と英語の歌を口ずさんだり、リズムを取って踊ったり、歌ったりすることが大好きになっていきます。

③子どもの主体性を育むあそび・体験

子ども一人一人の個性を大切にし、毎日の様々な遊びの中で、身体を動かすことの楽しさや、友達との関わり、他人への思いやりの心を育みます。元気な子ども、想像力をふくらませる子どもへと成長していけるように、日々、見守っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年8月8日（契約日） ～ 令和6年3月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)四季を感じる活動や様々な体験が子どもの生活と遊びを豊かにしています  
初詣や鏡開き、節分、ひな祭り、七夕、クリスマス会、お餅つき等、四季の行事の季節感や文化を大切にしています。積極的に戸外活動をして、昆虫や草花に触れ、持ち帰った昆虫を飼育したりしています。散歩で商店街に買い物に行き地域住民と交流したり、地域の夏祭りの御旅所や獅子舞を楽しんでいます。人形劇を見に行く機会もあります。園庭では泥遊びもし、年長児は夏のお泊り保育があります。室内でも年齢に応じた雑巾がけを活動に取り入れ、体を使った遊びを工夫し、体幹やバランス、手首、足腰が自然に鍛えられています。専門講師による英語と音楽のプログラムもあります。子どもが楽しみながら、保育目標の一つである「いろいろな経験を通じて五感を豊かにし、想像力を膨らませる子ども」の実現に取り組んでいます。

2)子どもの育ちの連続性を大切にする保育に取り組んでいます

子ども一人ひとりを理解し、丁寧に向き合うことを心がけています。子どものそのままの姿を受け止め、共感する事を大切にしています。保育園と家庭の生活の流れや連続性を大切にして、子どもが安心して過ごせるよう環境を整えています。生活習慣の習得や保育目標は、すぐにできるようになるわけではないため、日々の積み重ねや段階を踏んでいくこと、子ども一人ひとりの状態を見ながら対応することを大切にしています。その時の一現象だけを見て判断しないようにしています。職員間で共通理解をするように努めています。子どもの育ちに関し、家庭と共有し、一緒に子育てを行うことを大事にしています。

3)栽培・収穫体験などさまざまな食育に取り組んでいます

年齢ごとの食育に熱心に取り組んでいます。園の畑やプランターで年間を通して季節の野菜を栽培し、玄関ホールに「ねむの樹 畑の一年間」を掲示しています。5月はグリーンピースのさやむきやきゅうり、ピーマン、小玉すいかの収穫、秋は冬に向けて大根、人参は種まきから始め、12月に収穫します。収穫後は給食や制作に利用しています。また、バケツ稲づくりに取り組み、秋は稲刈りと脱穀を行います。そのほか伝統行事にちなんだお月見団子作りや餅つき、鏡餅づくりを行っています。様々な食体験を通して、子どもたちの生きる力を育てています。

4)事業計画の内容について、職員の理解をより深める取組に期待します

令和5年の事業計画に、今年度の目標として「『全職員でねむの樹が大切にしてきた保育と保育の基本に立ち返る』つなげる保育を行う」等を挙げています。園では年度初めの職員会議で毎年新たに「職場のルール」という資料を配付し、適切な保育と円滑な業務実施のために必要なことを全職員で再確認しています。今年度の目標については詳細に記述されていますが、前提となる園がめざすべきビジョンや目標についても明記されることが期待されます。また、中・長期的な園としての見通しについても、安心して保育に専念するためには、期間を決めて課題と目標を明文化し職員と共有することを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育園が開園してから2度目の受審となりましたが、改めて保育所運営や保育内容について、職員とともに振り返り、今後の課題を考えるための良い機会となりました。職員同士力を合わせて、保育の質を向上させることに取り組んできましたが、今回、第三者の方に評価をして頂き、高く評価をいただいた項目につきましては、園としての自信につながりました。一方、まだまだたくさんの課題が残っていることもわかりましたので、調査結果を踏まえ、職員全員で課題の解決に向けて協力していく所存です。これからも、子ども達にとってより良い保育を目指し、また保護者の方にも、より良い支援ができるよう努力して参ります。今回、アンケートにご協力頂きました保護者の方々、並びに、評価して頂きました第三者委員の方々には感謝を申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり